

## 支え合う力



聖学院大学 学長 姜 尚中

私は2014年4月1日から聖学院大学の学長を拝命いたしました。私が学長を拝命することにしたのは、この地が埼玉の地であり、また、上尾の地であるというところにある種の宿命のようなものを感じたからであります。1980年、私はこの埼玉の地で、所帯を持ち、家族を持ち、そして生活を始めました。この埼玉の地に、もう一度、大げさに言いますと骨を埋めるつもりで立ち戻ったという、そういう決意でございます。

聖学院大学は26年にわたりこの埼玉の地で大学としての歴史を歩んでまいりました。本大学は地域と共に歩む、地域の地域による地域のための大学として、これからも皆様方と共に歩んでいきたいと私は考えております。

今、日本の社会はこれまでどの社会も経験しなかった少子高齢化に向かっています。地域社会が刃こぼれをし、そこから流砂のように人々が孤立していく社会へと向かっていくのか。それとも、弱い力ではあっても、それが真の意味での集合力となって人々が支え合う社会を作っていくことができるのか。そのような分岐点に今、日本の社会は立っていると思います。

今後、日本の社会はどちらに向かっていくのでしょうか。私たちや次の世代はどのような地域に生きることになるのでしょうか。経済はどうなり、家計はどうなり、雇用はどうなり、そして年金や、福祉や、医療や、介護はどうなるのでしょうか。様々

な病気や障害を背負った人々はどのように生きていくのでしょうか。こういったいろいろな「不安」というものが交錯する中、行政もまた試行錯誤を繰り返しています。今後、確実に人口が低減していく中で、そして様々な給付のための財源がじりじりと減少していく中で、如何にして私たちはより良く生きる地域社会をつくれるのでありましょか。このような課題の前に初めて日本は直面しています。

では、我々はどうするべきか。私は、一言で申し上げれば「社会を強くする」、「地域を強くする」ということではないかと思っています。

「社会を強くすること」、「地域を強くすること」。それは「共に支え合う」ということであります。弱い個人が様々な工夫を凝らし、皆が支え合うことによって、弱い力が強い力になるということでもあります。一人ひとり例えどんなに弱くても、しかしそれが寄り集まり、知恵を出し合い、お互いさまの関係で共に支え合うような地域社会に生きられれば、例えどんなに孤独の中にあっても、そのネットワークの中で人々が生きていければ、私は必ずや強い社会というものが現れてくる、そういう確信を持っております。

どんなにIT化が進み、どのようにグローバルな情報が飛び交う社会でも、私たち人間は地に足を着いてしか生きられないということ、我々は東日本大震災で学びました。例えどんなにグローバルなものを目指しても、この人間の身体がある限りは、具体

的な場、具体的な空間の中で、人はコミュニティを形成し、家族を形成し、人と交わり、支え合いながら、そして連綿と続いてきた生命を後々の世代にバトンタッチしていく、これが人間の営みであると我々は学びました。地域という場の中で、具体的に生活する人々が寄り集まり、そして地域社会の環境、雇用、生活・暮らし、文化、教育、伝統、そして地域社会への愛着、こういうもののサイクルを何世代にもわたって、言わばサステナブル（持続可能）な地域社会を育てていかなければなりません。

私は「大学」もその中で応分の役割を引き受けていかなければならないと思っています。「大学」は地域社会から隔絶し、砂上の楼閣のようにあるのではなく、真理を求め、知を求めて、しかしながら足場は地域社会の中にあるべきと考えています。本大学はこのことを何度も何度も確かめながら26年の歳月を経てまいりました。我が大学は埼玉県、上尾

市、さいたま市、春日部市と様々な協定を結びながら、行政ともいろいろな交流と支え合う機会を増やしつつ、これからも身をもって地域に生きる人々に還元していきたいと思っています。

この埼玉の地は最も人口の流入と流出が高い地域であり、おそらくはこの日本の社会の地域の中で最も激しく揺れ動き、変動尽きない地域であると思います。言ってみれば、この埼玉での実験が日本の社会の未来がどうあるべきかを照らす、最も先進的なパイロットになるかもしれません。

この大学を地域に開き、地域の方々と一緒に歩み、そしてそれに向けて私たち自身も学習をし、準備をし、そして様々な交流を深め、皆様方に愛される聖学院大学というものを今後も目指したいと思います。私自身もこの埼玉の地で、地域のため、またこの大学のために全力を尽くしてまいりたいと思います。

## 寄稿者

**姜 尚中** (かん さんじゅん)

聖学院大学学長、東京大学名誉教授

専門:政治学、政治思想史

経歴:国際基督教大学准教授、東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授などを経て現職

主な著書:「マックス・ウェーバーと近代」(お茶の水書房/岩波書店・岩波現代文庫)

「オリエンタリズムの彼方へ」(岩波書店・岩波現代文庫) 等